

教科	科目	単位数	種別	年次	
数学	数学 I	3	必修科目	1年	
使用教科書	新編 数学 I (数研出版)			担当者	

学習目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
学習方法	授業は教科書の例題、練習問題中心に行い、問題集で補足する。 家庭学習において問題を解き、授業の復習をし授業内容の理解を深める。	
学習評価	育成を目指す資質・能力	
	育成を目指す資質・能力の評価内容	
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	以上の観点をふまえ、 ・8つの観点で学習の状況を総合的に評価。 ・単元テスト等の成績、課題やレポートの取組状況、授業への参加態度などから総合的に評価。	
担当者から		

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	数と式	式の計算	多項式の加法と減法	○			○	○				・数を実数まで拡張する意義を理解するとともに、簡単な無理数の計算をすることができる。 ・二次の乗法公式や因数分解の公式を適切に用いて計算をすることができる。 ・不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、一次不等式の解を求めることができる。	・集合の考えを用いて命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をすることができる。 ・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。 ・一次方程式を解く方法や不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察することができる。	・事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。	・単元テスト ・課題テスト ・小テスト ・課題 ・学習活動への取り組みなどをもとに総合的に評価する。
4			多項式の乗法	○			○	○							
4			因数分解	○			○	○							
5		実数	実数	○			○	○							
5			根号を含む計算	○			○	○							
6			1次不等式	○			○	○							
6		1次不等式	1次不等式	○			○	○							
6			絶対値を含む方程式・不等式	○			○	○							
7			集合と命題	集合	○			○	○						
8		命題と条件		○			○	○							
9	命題とその逆・裏・対偶	○				○	○								
9	命題と証明	○				○	○								
9	2次関数	2次関数とグラフ	関数とグラフ	○			○	○			・二次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。 ・二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解している。 ・二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めることができる。	・二次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。 ・二つの数量や関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	・事象を二次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。		
9			2次関数のグラフ	○			○	○							
10		2次関数の値の変化	2次関数の最大・最小	○			○	○							
10		2次関数の決定	○			○	○								
10		2次方程式と2次不等式	2次方程式	○			○	○							
10			2次関数のグラフとx軸の位置関係	○			○	○							
10			2次不等式	○			○	○							
11	図形と計量	三角比	三角比	○	○		○			・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。 ・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解している。 ・鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。 ・正弦定理や余弦定理について二	・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。 ・図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。			
11			三角比の相互関係	○			○	○							
11			三角比の拡張	○			○	○							
12		三角形への応用	正弦定理	○			○	○							

12		余弦定理	○							任意の二角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。	特定の事象の特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	
12		正弦定理と余弦定理の応用	○		○					・正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。		
12		三角形の面積	○		○							
12		空間図形の応用	○		○				○			
1	データの分析	データの分析	データの整理	○	○		○			・分散、標準偏差、散布図および相関係数の意味やその用い方を理解している。	・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。	・事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。
1			データの代表値	○	○		○			・コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。	・目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。	・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価。・改善したりしようとしている。
2			データの散らばりと四分位数	○	○		○					
2			分散と標準偏差	○	○		○					
3			2つの変量間の関係	○	○		○			・具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。	・不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。	
3			仮説検定の考え方	○	○		○					

教科	科目	単位数	種別	年次	
数学	数学Ⅱ	4	選択科目	2年	
使用教科書	新編 数学Ⅱ(数研出版)			担当者	

学習目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
学習方法	授業では教科書の例題、練習問題を中心に授業を行い、補足として問題集の問題を解く。 家庭学習において問題集を解くことによって授業で習った内容の理解度を確認していく。	
学習評価	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	以上の観点をもまえ、 ・8つの観点で学習の状況を総合的に評価。 ・単元テストや課題テストの成績、課題やレポートの取組状況、授業への参加態度などから総合的に評価。	
担当者から	教科書や問題集やプリントなど中心に授業を進めます。自宅での問題演習にも積極的に挑んでください。じっくり時間をかけ、類題から発展問題に学習をすすめてください。	

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法		
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
4	いろいろな式	式と計算	3次式の展開と因数分解	○									・三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。 ・多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算をすることができる。 ・等式及び不等式の証明と計算の違いについて知り、証明として記述することができる。	・式の計算の方法や式の計算と関係付け多面的に考察することができる。 ・実数の性質や等式の性質、不等式の性質などに基き、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。	・事象をいろいろな式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。	・単元テスト ・課題の取り組み状況 ・授業への参加態度などを総合的に判断する	
4			二項定理	○	○												
4			整式の割り算	○	○		○										
4			分数式とその計算	○													
5			等式・不等式の証明	等式の証明	○			○									
5				不等式の証明	○			○	○								
5			複素数と2次方程式の解	複素数とその計算	○												
5				2次方程式の解	○	○		○									
6				解と係数の関係	○		○		○								
6			高次方程式	剰余の定理と因数分解	○		○		○								
6				高次方程式	○	○		○									
6			図形と方程式	点と直線	直線上の点	○											
6	平面上の点	○															
7	直線の方程式	○						○									
7	2直線の関係	○						○									
8	円	円の方程式		○	○		○										
9		円と直線		○	○		○										
9		2つの円		○	○		○										
9	軌跡と領域	軌跡と方程式		○		○											
9		不等式の表す領域		○		○	○	○									

教科	科目	単位数	種別	年次	
数学	数学Ⅲ	4	選択科目	3年	
使用教科書	新編 数学Ⅲ(数研出版)			担当者	

学習目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
	高い集中力をもち、授業に臨み、例題や演習問題を自発的に学習することにより各分野や各項目の理解に努める。 家庭学習において、授業で学習した問題の類似問題や発展的な問題を解くことにより、知識の定着と理解度を高める。	
学習方法	育成を目指す資質・能力	
	育成を目指す資質・能力の評価内容	
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察し、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
学習評価	以上の観点をふまえ、小テストや単元テストの結果、課題の取り組み状況、授業の取り組み状況などにより総合的に評価します。主に、単元テストや小テストにより1～4を、課題の取り組み状況、授業の取り組み状況で1～8を評価します。	
	担当者から	
担当者から	教科書、傍用問題集、プリントを中心に授業を進めます。授業時間を大切にし、家庭学習においての問題演習にも取り組んでください。じっくり時間をかけて取り組むと知識の定着と理解が深まり、その学習項目において何が大切かが見えてきます。	

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法	
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4	関数	関数	分数関数	○				○	○				簡単な分数関数と無理関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。合成関数や逆関数の意味を理解し、簡単な場合についてそれらを求めることができる。	既に学習した関数の性質と関連付けて、簡単な分数関数と無理関数のグラフの特徴を多面的に考察することができる。	事象を極限の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを積極的に活用しようとし、粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしていたり、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善をしようとしている。	単元テスト 課題の取組状況 授業への参加態度 などを総合的に判断する。
4			無理関数	○				○	○							
4			逆関数と合成関数	○		○	○									
5	極限	数列の極限	数列の極限	○				○	○			数列の極限について理解し、数列{r ⁿ }の極限などを基に簡単な数列の極限を求めることができる。無限級数の収束、発散について理解し、無限等比級数などの簡単な無限級数の和を求めることができる。関数の値の極限について理解している。	式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求める方法を考察することができる。			
5			無限等比数列	○				○	○							
5			無限級数	○				○	○							
6		関数の極限	関数の極限(1)	○				○	○							
6			関数の極限(2)	○				○	○							
6			三角関数と極限	○				○	○							
7			関数の連続性	○				○	○							
7	微分	導関数	微分係数と導関数	○				○	○			微分の可能性、関数の積及び商の導関数について理解し、関数の和、差、積及び商の導関数を求めることができる。合成関数の導関数について理解し、それを求めることができる。三角関数、指数関数及び対数関数の導関数について理解し、それらを求めることができる。導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べたりすることができる。	導関数の定義に基づき、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を考察することができる。関数の連続性と微分可能性、関数とその導関数や第二次導関数の関係について考察することができる。関数の局所的な変化や大域的な変化に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	事象を微分法の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを積極的に活用しようとし、粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしていたり、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善をしようとしている。		
8			導関数の計算	○				○	○							
8		いろいろな関数の導関数	○				○	○								
9		第n次導関数	○				○	○								
9		曲線の方程式と導関数	○		○	○										
9	微分法の応用	導関数の応用	接線の方程式	○				○	○							
9			平均値の定理	○				○	○							
10			関数の値の変化	○				○	○							
10			関数のグラフ	○		○	○									
10		いろいろな応用	方程式、不等式への応用	○		○	○									

10		速度と加速度	○	○	○								
11		近似式	○	○	○								
11	積分方とその応用	不定積分	不定成分とその基本性質	○		○	○			不定積分及び定積分の基本的な性質についての理解を深め,それらを用いて不定積分や定積分を求めることができる。置換積分法及び部分積分法について理解し,簡単な場合について,それらを用いて不定積分や定積分を求めることができる。定積分を利用して,いろいろな曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積及び曲線の長さを求めることができる。	関数の式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりして,いろいろな関数の不定積分や定積分を求める方法について考察することができる。極限や定積分の考えを基に,立体の体積や曲線の長さなどを求める方法について考察することができる。微分と積分との関係に着目し,事象を数学的に捉え,問題を解決したり,解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	事象を積分法の考えを用いて考察するよさを認識し,問題解決にそれらを積極的に活用しようしたり,粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり,評価・改善したりしようとしている。	
11			置換積分法と部分積分法	○		○	○						
11			いろいろな関数の不定積分	○		○	○						
12		定積分	定積分とその基本性質	○		○	○						
12			置換積分法と部分積分法	○		○	○						
12			定積分のいろいろな問題	○		○	○						
1		積分法の応用	面積	○	○	○							
1			体積	○	○	○							
1			道のり	○	○	○							
1			曲線の長さ	○	○	○							

教科	科目	単位数	種別	年次	
数学	数学A	2	必修科目	1年	
使用教科書	新編 数学A(数研出版)			担当者	

学習目標
 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

学習方法
 授業は教科書の例題、練習問題中心に行い、問題集で補足する。
 家庭学習において問題を解き、授業の復習をし授業内容の理解を深める。

育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。

以上の観点をふまえ、
 ・8つの観点で学習の状況を総合的に評価。
 ・単元テスト等の成績、課題やレポートの取組状況、授業への参加態度などから総合的に評価。

担当者から

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法		
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
4	場合の数と確率	場合の数	集合の要素の個数	○	○	○							・集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 ・具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列や組合せの総数を求めることができる。 ・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 ・独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率をもとめることができる。 ・条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。	・事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質などに基いて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。	・事象の場合の数や確率の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。	・単元テスト ・課題テスト ・小テスト ・課題 ・学習活動への取り組みなどをもとに総合的に評価する。	
4			場合の数	○	○	○											
5			順列	○	○	○											
5			組合せ	○	○	○											
6			確率	事象と確率	○	○	○										
6			確率の基本性質	○	○	○											
7			独立な試行と確率	○	○	○											
7			条件付き確率	○	○	○											
8			期待値	○	○	○											
9			図形の性質	平面図形	三角形の辺の比	○		○				○					
9	三角形の外心・内心・重心	○					○	○									
10	チェバの定理・メネラウスの定理	○						○	○								
10	円に内接する四角形	○						○	○								
11	円と直線	○						○	○								
12	2つの円	○						○	○								
1	作図	○						○	○								
2	空間図形	直線と平面			○				○	○							
3	空間図形と多面体	○						○	○								

教科	科目	単位数	種別	年次
数学	数学B	2	選択科目	異年次合同
使用教科書	新編 数学B(数研出版)			担当者

学習目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。																		
	授業では教科書の例題、練習問題を中心に授業を行い、補足として問題集の問題を解く。 家庭学習において問題集を解くことによって授業で習った内容の理解度を確認していく。																		
学習評価	<table border="1"> <tr> <th>育成を目指す資質・能力</th> <th>育成を目指す資質・能力の評価内容</th> </tr> <tr> <td>1 基礎的・基本的学力</td> <td>基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。</td> </tr> <tr> <td>2 課題解決能力</td> <td>社会的諸事象を多面的・多角的に考察し、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。</td> </tr> <tr> <td>3 情報活用能力</td> <td>多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。</td> </tr> <tr> <td>4 自己表現力</td> <td>目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。</td> </tr> <tr> <td>5 主体性</td> <td>課題解決に向け、主体的に追究することができる。</td> </tr> <tr> <td>6 協働性</td> <td>課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。</td> </tr> <tr> <td>7 自己理解</td> <td>諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。</td> </tr> <tr> <td>8 社会貢献(社会参画)</td> <td>地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。</td> </tr> </table> <p>以上の観点をもまえ、 ・8つの観点で学習の状況を総合的に評価。 ・単元テストや小テストの成績、課題やレポートの取組状況、授業への参加態度などから総合的に評価。</p>	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察し、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容																	
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。																	
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察し、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。																	
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。																	
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。																	
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。																	
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。																	
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。																	
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。																	
担当者から	教科書や問題集やプリントなど中心に授業を進めます。自宅での問題演習にも積極的に挑んでください。じっくり時間をかけ、類題から発展問題に学習を進めてください。																		

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	数列	等差数列と等比数列	数列と一般項	○								・等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。 ・事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。 ・事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。 ・自然数の性質を見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。 ・漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。 ・数学的帰納法について理解している。	・事象を数列の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。	・単元テストや小テスト ・課題の取り組み状況 ・授業への参加態度などを総合的に判断する。	
4			等差数列	○	○	○									
5			等差数列の和	○	○	○									
5			等比数列	○	○	○									
6			等比数列の和	○	○	○									
6		いろいろな数列	和の記号Σ	○	○		○								
7			階差数列	○	○		○								
7			いろいろな数列の和			○	○	○							
8		漸化式と数学的帰納法	漸化式		○	○									
9			数学的帰納法		○	○	○								
10	統計的な推測	確率分布	確率変数と確率分布	○	○					・標本調査の考え方を理解している。 ・確率変数と確率分布について理解している。 ・二項分布と正規分布の正規分布の性質や特徴について理解している。 ・正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解している。	・確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察することができる。 ・母集団の特徴や傾向を推測することができる。 ・標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。	・事象を統計的な推測の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。			
11			確率変数の期待値と分散	○	○	○									
12			確率変数の和と積	○	○	○									
12			二項分布	○	○	○									
1			正規分布		○	○									
2		統計的な推測	母集団と標本		○	○	○								
2			標本平均の分布		○	○	○								
3		推定		○	○	○	○								

教科	科目	単位数	種別	年次	
数学	数学C	2	選択科目	3年	
使用教科書	新編 数学C			担当者	

学習目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。																		
	高い集中力をもち、授業に臨み、例題や演習問題を自発的に学習することにより各分野や各項目の理解に努める。 家庭学習において、授業で学習した問題の類似問題や発展的な問題を解くことにより、知識の定着と理解度を高める。																		
学習評価	<table border="1"> <tr> <th>育成を目指す資質・能力</th> <th>育成を目指す資質・能力の評価内容</th> </tr> <tr> <td>1 基礎的・基本的学力</td> <td>基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。</td> </tr> <tr> <td>2 課題解決能力</td> <td>社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。</td> </tr> <tr> <td>3 情報活用能力</td> <td>多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。</td> </tr> <tr> <td>4 自己表現力</td> <td>目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。</td> </tr> <tr> <td>5 主体性</td> <td>課題解決に向け、主体的に追究することができる。</td> </tr> <tr> <td>6 協働性</td> <td>課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。</td> </tr> <tr> <td>7 自己理解</td> <td>諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。</td> </tr> <tr> <td>8 社会貢献(社会参画)</td> <td>地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。</td> </tr> </table> <p>以上の観点をもまえ、 小テストや単元テストの結果、課題の取り組み状況、授業の取り組み状況などにより総合的に評価します。 主に、単元テストや小テストにより1～4を、課題の取り組み状況、授業の取り組み状況で1～8を評価します。</p>	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容																	
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。																	
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。																	
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。																	
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。																	
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。																	
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。																	
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。																	
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。																	
担当者から	教科書、傍用問題集、プリントを中心に授業を進めます。授業時間を大切にし、家庭学習においての問題演習にも取り組んでください。 じっくり時間をかけて取り組むと知識の定着と理解が深まり、その学習項目において何が大切かが見えてきます。																		

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法	
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4	平面上のベクトル	ベクトルとその演算	ベクトル	○			○	○				平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解している。ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解している。座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解している。	実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察することができる。ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすることができる。数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用することができる。	事象をベクトルの考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	単元テスト 課題の取組状況 授業への参加態度 などを総合的に判断する。	
4			ベクトルの演算	○			○	○								
5			ベクトルの成分	○			○	○								
5			ベクトルの内積	○			○	○								
6			ベクトルの平面図形	位置ベクトル	○			○	○							
6			ベクトルの図形への応用		○			○	○							
6			図形のベクトルによる表示	○			○	○								
7	空間のベクトル	空間のベクトル	空間の点	○			○	○				極座標の意味及び曲線が極方程式で表されることについて理解している。複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解している。ド・モアブルの定理について理解している。	複素数平面における図形の移動などに関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察することができる。	事象を平面上の曲線と複素数の平面の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。		
7			空間のベクトル	○			○	○								
8			ベクトルの成分	○			○	○								
9			ベクトルの内積	○			○	○								
9	複素数平面	複素数平面	複素数平面	○			○	○				放物線、楕円、双曲線が二次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解している。曲線の媒介変数表示について理解している。	放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察することができる。			
9			複素数の極形式	○			○	○								
10			ド・モアブルの定理	○			○	○								
10			複素数と図形	○			○	○								
10	式と曲線	2次曲線	放物線	○			○	○				放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察することができる。				
11			楕円	○			○	○								
11			双曲線	○			○	○								
11			2次曲線の平行移動	○			○	○								
12			2次曲線と直線	○			○	○								

12		媒介変数表示と極座標	曲線の媒介変数表示	○				○	○																						
1			教区座標と極方程式	○			○		○																						

教科	科目	単位数	種別	年次	
数学	数学研究A	2	選択科目	3年	
使用教科書	なし			担当者	

学習目標
 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

学習方法
 問題集の問題を中心に解き、類似問題の演習、小テスト、課題などにより学習事項の定着を図る。
 さまざまな問題を解き実践力の向上を図る。問題文の読み取り能力を鍛える。

育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。

以上の観点をふまえ、主に単元テストで1・3を、授業中のさまざまな問題への取り組みで2・4～8を評価します。

担当者から
 さまざまな問題に取り組みます。授業で真剣に問題に取り組むのはもちろん、終わらなかった問題は必ず家庭学習で取り組んでください。毎時間全力で取り組みましょう。

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法	
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4	数と式	分野の要点	基本的な定理・公式・要点を覚える。		○	○							・数を実数まで拡張する意義を理解するとともに、簡単な無理数の計算をすることができる。 ・2次の乗法公式や因数分解の公式を適切に用いて計算をすることができる。	・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。	・事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。	単元テスト、問題の取り組み状況などを元に評価する。
		基本問題	定理・公式を利用して基本問題を解く。		○	○										
		例題・問題	絶対値の意味を正しく理解し、場合分けで考察する。				○	○								
			包含関係から考察する。				○	○								
5	2次関数	分野の要点	基本的な定理・公式・要点を覚える。		○	○						・2次関数の最大・最小を求めることができる。 ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解している。 ・2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。	・2つの数量や関係に着目し、日常の事象や社会的事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	・事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。		
		基本問題	定理・公式を利用して基本問題を解く。		○	○										
		例題・問題	頂点の座標を利用して平行移動の問題を解く。				○	○								
			場合に分けて最大値・最小値を考察する。				○	○								
			判別式を利用して解く。				○	○								
			判別式または頂点の座標を利用して解く。				○	○								
6	図形と計量	分野の要点	基本的な定理・公式・要点を覚える。		○	○						・三角比の基本的な考えや正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。 ・正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。	・図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会的事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。		
		基本問題	定理・公式を利用して基本問題を解く。		○	○										
		例題・問題	三角形の内接円の半径を使って三角形の面積を表す。				○	○								
			問題により定理・公式を使い分ける。				○	○								
			空間図形の体積を三角比を利用して求める。				○	○								
8	データの分析	分野の要点	基本的な定理・公式・要点を覚える。			○						・分散、標準偏差、散布図および相関係数の意味やその使い方を理解している。	・目的に応じて適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。	・事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。		
		基本問題	定理・公式を利用して基本問題を解く。			○										
		例題・問題	文章・図を読み取り、自ら解法を見いだす。			○	○									
9	場合の数と確率	分野の要点	基本的な定理・公式・要点を覚える。		○	○						・具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列や組合せの総数を求めることができる。 ・確率の意味や基本的な法則について、	・確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質などに基いて事象の起こりやすさを判断	・事象を場合の数や確率の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断		
		基本問題	定理・公式を利用して基本問題を解く。		○	○										

教科	科目	単位数	種別	年次	
数学	数学研究B	2	選択科目	3年	
使用教科書	なし			担当者	

学習目標
 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

学習方法
 教科書の問題を中心に解き、小テストを行い理解度を確認する。さまざまな問題を解き、実践力をつける。
 家庭学習の中で、課題等の取り組みを行い、高度な内容の習熟を図る。

育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察し、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。

以上の観点をふまえ、主に単元テストや小テストで1・3を、授業中の問題への取り組みで2・4～8を評価します。

担当者から
 さまざまな問題に取り組みます。授業で真剣に問題に取り組むのはもちろん、終わらなかった問題は必ず家庭学習で取り組んでください。全力で取り組みましょう。

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法	
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4	式と証明	式と計算	3次式の展開と因数分解	○									<ul style="list-style-type: none"> 3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。 多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算をすることができる。 等式及び不等式の証明と計算の違いについて知り、証明として記述することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関係付け多面的に考察することができる。 実数の性質や等式の性質、不等式の性質など基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象をいろいろな式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようしたりしている。 	単元テスト・小テスト 問題の取り組み状況 授業での取り組み状況 プリントの提出状況 周りとの協力状況 などを元に評価する。
4			二項定理	○		○										
4			整式の割り算	○	○		○									
4			分数式とその計算	○												
4		等式・不等式の証明	等式の証明	○							○					
4			不等式の証明	○			○				○					
4	複素数と方程式	複素数と2次方程式の解	複素数とその計算	○						○		<ul style="list-style-type: none"> 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができる。 二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解している。 因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようしたりしている。 		
4			2次方程式の解	○		○	○									
4			解と係数の関係	○		○	○									
4		高次方程式	剰余の定理と因数分解	○		○	○									
4	高次方程式		○	○		○										
5	図形と方程式	点と直線	直線上の点	○								<ul style="list-style-type: none"> 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を表すことができる。 座標平面上の直線や円を方程式で表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようしたりしている。 		
5			平面上の点	○												
5			直線の方程式	○			○									
5			2直線の関係	○			○									
5		円	円の方程式	○		○	○									
5			円と直線	○		○	○									
5			2つの円	○		○	○									
5		軌跡と領域	軌跡と方程式	軌跡について理解し、軌跡を求めることができる。	○		○				○					<ul style="list-style-type: none"> 軌跡について理解し、軌跡を求めることができる。 不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。
5	不等式の表す領域			○		○	○									
6	指数関数と対数関数	指数関数	指数の拡張	○		○					<ul style="list-style-type: none"> 指数を正の整数から有理数に拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数と式の計算をすることができる。 指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 指数と対数を相互に関係付けて考察することができる。 指数関数と対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象を指数関数・対数関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようしたりしている。 			
6			指数関数	○		○	○									

教科	科目	単位数	種別	年次	
数学	数学課題探究	2	選択科目	3年	
使用教科書	なし			担当者	

学習目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
学習方法	教科書の問題を中心に解き、小テストを行い理解度を確認する。また、さまざまな問題に取り組み、実践力をつける。 家庭学習の中で、練習プリント等の取り組みを行い、基礎・基本の定着を図る。	
学習評価	育成を目指す資質・能力	
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
		以上の観点をふまえ、 単元テストや小テストの成績、練習プリント等の課題の取り組み状況、授業への取り組み状況などから総合的に評価する 主に、単元テストや小テストにより1～4を、課題の取り組み状況、授業の取り組み状況で1～8を評価します。
担当者から	教科書、プリントを使い、さまざまな問題に取り組みます。授業時間を大切にし、家庭学習においての問題にも取り組んでください。小テストを実施するので、自分の理解度を毎回確認し、できなかったところをしっかりと確認しましょう。問題を取り組んだ分だけ実力が向上します。	

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	数と式	式と計算	展開の公式を利用する。	○			○	○				<ul style="list-style-type: none"> ・数を実数まで拡張する意義を理解するとともに、簡単な無理数の計算をすることができる。 ・二次の乗法公式や因数分解の公式を適切に用いて計算をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。 	単元テスト、小テスト 練習プリントの取り組み状況などを元に評価する。
4			式の特徴に着目して変形や置き換えなどして式の計算を簡略化する。	○			○	○							
4			因数分解の公式利用や置き換えなど工夫をして計算する。	○			○	○							
4		実数	根号を含む式の計算ができ、分母の有理化をする。	○			○	○							
5			2重根号をはずす公式を使う。	○			○	○							
5			絶対値の意味と記号表示を理解する。	○			○	○							
5	2次関数	2次関数とグラフ	2次関数の特徴を理解し、表現する。	○			○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ・二次関数の最大・最小を求めることができる。 ・二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解している。 ・二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの数量や関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を二次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。 		
5			2次関数の最大値、最小値を求める。	○			○	○							
5			与えられた条件から2次関数を決定する。	○			○	○							
5			2次方程式を解き、判別式を利用して問題を考察する。	○			○	○							
5			1次不等式や連立不等式を解く。	○			○	○							
6			2次不等式や連立不等式を解く。	○			○	○							
6			2次関数のグラフとx軸の位置関係を判別式の符号から考察する。	○			○	○							
6			絶対値の意味から、絶対値を含む方程式、不等式を解く。	○			○	○							
6	図形と計量	三角比	直角三角形において、正弦・余弦・正接が求まる。	○			○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。 ・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解している。 ・鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。 ・正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。 ・正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。 ・図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。 		
6			三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値が求まる。	○			○	○							
6			座標を用いた三角比の定義を理解し、三角比の値からθを求める。	○			○	○							
6			正弦定理を利用して、三角形の外接円の半径、辺の長さや角の大きさが求まる。	○			○	○							
7			余弦定理を利用して、三角形の辺の長さ、角の大きさが求まる。	○			○	○							
7			三角比を用いた三角形の面積公式を理解する。	○			○	○							
7			向かい合う角の和が180°や定理の活用して問題を解く。	○			○	○							
7			正四面体の体積の求め方を理解する。	○			○	○							
7	データの分析	データの整理	度数分布表、ヒストグラム、代表値について理解する。	○	○		○				<ul style="list-style-type: none"> ・分散、標準偏差、散布図および相関係数の意味やその 	<ul style="list-style-type: none"> ・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを 		

7		箱ひげ図をかき、データの分布を比較する。	○	○						用い方を理解している。 ・分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。 ・具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。	することができる。 ・目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。	認識し、問題解決にそれらを活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようしたりしている。	
8		平均値・分散と標準偏差の定義とその意味を理解し、その値を求める。	○	○									
8		相関係数の定義とその意味を理解し、定義に従ってその値を求める。	○	○									
8	場合の数と確率	集合	和集合や補集合について理解し、その要素の個数を求める。	○		○					・集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 ・具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列や組合せの総数を求めることができる。 ・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。	・事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。	・事象を場合の数や確率の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
8		命題の真偽を考察し、必要条件等の定義や使い方を理解する。	○		○								
8		場合の数	和の法則、積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分ける。	○		○							
8			順列と組合せの違いを理解し、場合に応じて使い分ける。	○	○								
8			順列、円順列、重複順列の公式を理解し、利用する。	○	○								
8			場合の数を組合せに帰着して求める。	○	○								
9		確率	確率の性質を理解し、和事象、余事象等の確率の求め方を理解する。	○		○					・独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率をもとめることができる。 ・条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。		
9			反復試行の確率を、公式を用いて求める。	○		○							
9			条件付きの確率を求める。	○		○							
10	図形の性質	図形の性質	図形の性質を利用して角度を求める。	○		○					・三角形に関する基本的な性質について理解している。 ・円に関する基本的な性質について理解している。 ・空間図形に関する基本的な性質について理解している。	・図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見いだし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。	・事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
10			三角形の内心、外心の定義、性質を理解する。	○		○							
10			定理を利用して、線分の比や長さを求める。	○		○							
10			方べき定理を利用して、辺の長さ、PA・PBの値を求める。	○		○							
10			円の接線の性質、共通接線の定義を理解し、線分の長さを求める。	○		○							
11	総合問題	総合問題	これまでの学習を活用して問題を解く。	○				○	○		・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。	・問題を通して、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	
11			間違えた問題の復習をする。	○				○	○				
12			苦手分野の克服に努める。	○				○	○				
1			問題の解法を協力して導き出す。	○				○	○				